

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル: Age at menarche and risk of adverse obstetric outcomes during the first childbirth in Japan: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 初産婦における初経年齢と妊娠帰結の関連

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Obstetrics and Gynecology Research

年: 2021 DOI: doi.org/10.1111/jog.15057

筆頭著者名: 菅野垂矢

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

初経年齢は妊娠糖尿病や早産などのリスクに関連する可能性が報告されている。本研究では、初産婦における初経年齢と妊娠帰結の関連について検討した。

方法:

エコチル調査参加者のうち、初めて分娩を経験する 37645 名を、初経年齢により 9 歳以下、10、11、12、13、14、15 歳以上の 7 群に分類し、母体年齢、喫煙状況、母親の妊娠前の合併症、妊娠時の体格を群間で比較した。また、12 歳群を参照としたときの、37 週未満の早産、2500g 未満の低出生体重児、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病の発症リスクを計算した。

結果:

9 歳未満で初経を迎えた女性は妊娠前の Body Mass Index (BMI) が高い傾向にあった。また、12 歳グループを参照とした場合、9 歳未満で初経を迎えた女性は、妊娠 24 週未満に診断される早期診断型妊娠糖尿病の発症頻度が 2.4 倍であった。また 9 歳未満で初経を迎えた女性の妊娠糖尿病発症頻度は妊娠時の BMI に比例して高くなることが示された。

考察(研究の限界を含める):

今後そのメカニズム解明のためにさらなる研究が期待されるが、初経年齢が早い女性は女性ホルモンのばく露が多いため、BMI が高めの傾向にあり、妊娠糖尿病発症リスクに寄与した可能性がある。妊娠管理は前回の分娩合併症歴に基づいて行われることが多いが、初産婦の場合、分娩歴から妊娠合併症リスクを推定することは困難であり、初経年齢が有用な情報になる可能性が示唆された。本研究の限界点として、年齢、喫煙等の交絡因子を考慮した解析を行っていないことなどが挙げられる。

結論:

初経年齢は日常臨床の中で比較的容易に得られる情報であり、これを基に妊娠糖尿病の発症リスクが推定できれば、発症予防のための早期介入に寄与すると考えられる。